

みどころ

# 3

## ふつうのような 奇想のような



長沢蘆雪《老子図》(前期展示)



岸駒《白蓮菡萏図》(前期展示)



原在中《菊に鶏図》(後期展示)

これは「奇想」？ それとも「ふつう」？ ちょっと迷ってしまうような作品も、あえてご覧いただけます。今は「奇想」に見えても昔は「ふつう」だった、あるいはその逆の作品もあるかもしれません。そんな悩ましいことにも目を向けながら、江戸絵画の「ふつう」とは何かを考えてみます。

「ふつう」と「奇想」  
の間にある  
ユニークな画家の  
作品も揃う

みどころ

## 番外編

### 動物絵画も たくさん揃う

「春の江戸絵画まつり」では、これまでも江戸時代の動物絵画を取り上げてきました。今回は、動物絵画における「ふつう」について考えてみます。

### かわいい動物はいつ「ふつう」になったのか？



円山応挙《狗子図》(後期展示)



長沢蘆雪《紅葉狗子図》(前期展示)



岸駒《猛虎図》(前期展示)

表紙上段(左から右): 土佐光貞《吉野・竜田図》(前期展示)、松村景文《月・山桜小舎・山茶花菡萏図》(後期展示)、円山応挙《狗子図》(後期展示)、原在中《柳樹駿馬図》(前期展示) 中段: 狩野雅信《菊花園》(後期展示)、原在中《嵐山図》(後期展示)、原在中《富士山図》(後期展示) 下段: 岸駒《猛虎図》(前期展示)、幸野樸嶺《雪中清水寺》(後期展示)、冷泉為恭《高台・日月図》(後期展示) \*表紙右下: 土佐光起《伊勢図》(前期展示) ●すべて敦賀市立博物館蔵

関連イベント

- 講座+対談イベント「ふつうの系譜」の歴史と魅力 4月10日[日] 午後2時 府中市生涯学習センター講堂 無料 予約不要  
講座「ふつうの系譜」の画家たちと敦賀 加藤敦子(敦賀市立博物館学芸員) 30分 / 講座「ふつうの美」の輝き 金子信久(府中市美術館学芸員) 30分  
対談 語って楽しむ「ふつうの系譜」30分 上記の二人が、展示会の魅力や「ふつうの系譜」について語り合います。
- 子ども向けイベント「ふつう探検隊！」/会期中随時 展示会を見ながら「探検隊ワークシート」のクイズに挑戦。  
観覧料が必要ですが、府中市内の小中学生は、「府中っこ学びのパスポート」で入場できます。年齢制限はありませんので、大人の方の参加もお待ちしております。

休館日：月曜日(3月21日・5月2日は開館)、3月22日[火]  
 開館時間：午前10時～午後5時(入場は4時30分まで)  
 観覧料：一般700円(560円)、高校生・大学生350円(280円)、小・中学生150円(120円)  
 \* ( )内は20名以上の団体料金。\*未就学児および障害者手帳等をお持ちの方は無料。  
 \*常設展もご覧いただけます。\*府中市内の小中学生は「府中っこ学びのパスポート」で無料。  
**2度目は半額!** 観覧券をお求めいただくと、2度目は半額になる割引券が付いています(本展1回限り有効)。  
 主催：府中市美術館 \*本展の他会場への巡回はありません。特別協力：敦賀市立博物館

- 〈交通案内〉
- ◆京王線東府中駅から / 徒歩17分 / ちゅうバス府中駅行き  
「府中市美術館」①下車すぐ(8時5分から毎時30分間隔で運行、100円)
  - ◆京王線府中駅からバス  
・ちゅうバス多摩町行き「府中市美術館」①下車すぐ  
(8時から毎時30分間隔で運行、100円)
  - ・武蔵小金井駅南口行き(一本木経由)「天神町二丁目」②下車すぐ  
・武蔵小金井駅南口行き(学園通り経由)「天神幼稚園」③下車徒歩8分  
・国分寺駅南口行き(東八道路経由)「天神幼稚園」⑤下車徒歩8分
  - ◆JR中央線武蔵小金井駅南口から  
・府中駅行き(一本木経由)「一本木」④下車すぐ  
・府中駅行き(学園通り経由)「天神幼稚園」⑤下車徒歩8分
  - ◆JR中央線国分寺駅南口から  
・府中駅行き(東八道路経由)「天神幼稚園」⑤下車徒歩8分
  - ◆お車の場合は、美術館近くの府中市臨時駐車場(無料、54台収容)をご利用ください。



**府中市美術館**  
 Fuchu Art Museum  
 東京都府中市浅間町1の3  
 ハローダイヤル  
**050-5541-8600**  
[www.city.fuchu.tokyo.jp/art/](http://www.city.fuchu.tokyo.jp/art/)



# ふつうの系譜

京の絵画と  
敦賀コレクション

「奇想」があるなら  
「ふつう」もあります。

春の江戸絵画まつり

2022年

3月12日[土]

5月8日[日]

前期 3月12日[土] - 4月10日[日]

後期 4月12日[火] - 5月8日[日]

※詳しい予定は、ホームページまたはパロダイヤルでどうぞ

本展は、2020年に開催し、感染症拡大のため途中閉幕した「ふつうの系譜」展の再開開催です。

**府中市美術館**  
 Fuchu Art Museum



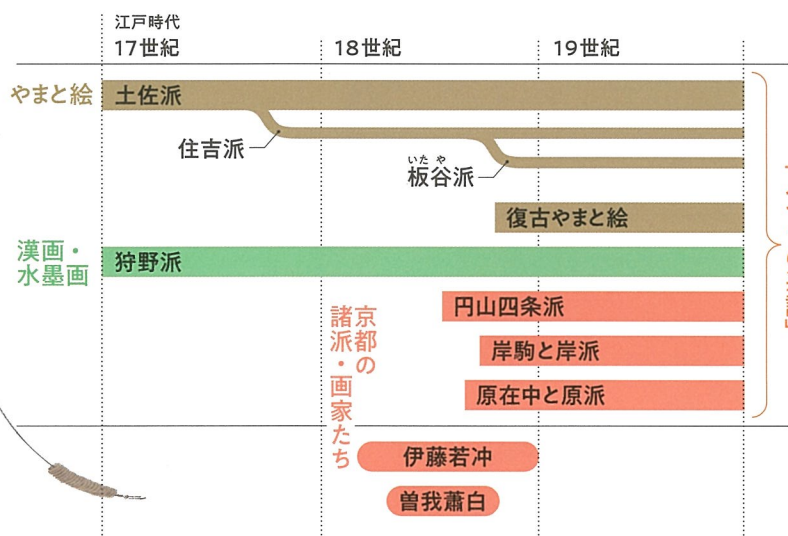
# 「ふつう」を知ると見えてくる。

みどころ

## 1 美術史のメインストリームを俯瞰する展覧会

若冲「奇想」に対して、「ふつう」の絵画とはどんなものだったのでしょうか？土佐派や狩野派、円山四条派など、美術界のメインストリームで「きれいなものづくり」に情熱を傾けた画家たちの仕事を紹介します。

## 「ふつう」の絵画史とは？



### やまと絵

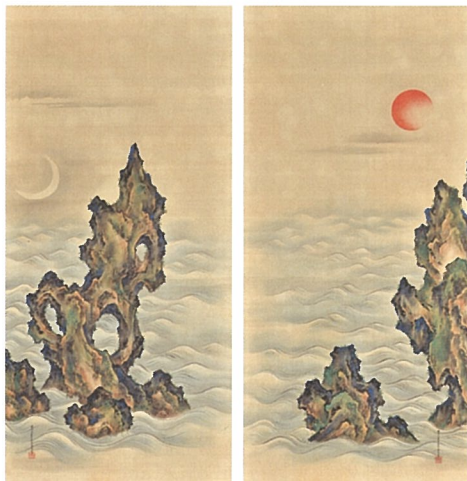
平安時代に生まれた絵のスタイルで、柔らかな線と形、緑や青などのふくよかな色彩が特徴。江戸時代には土佐派や住吉派などの画家が貴族らの雅びな世界を描きました。



冷泉為恭《忠孝図》(前期展示)

### 狩野派

中世、宋や元からもたらされた中国絵画から、「漢画」と呼ばれる水墨画のスタイルが生まれました。その描法をもとに、豪快な作品から端正な作品まで展開したのが狩野派です。



狩野養信《日月岩波図》(後期展示)

### 円山四条派

応挙は西洋画などに触発されて、目に映るものをリアルに描くという新しい絵画を模索し、日本絵画の歴史を変えました。その画法を受け継いだのが、円山四条派の画家たちです。



左：源琦《藍采和図》(後期展示)  
右：円山応挙《西王母・寿老図》(前期展示)

いま、江戸時代の画家の中で、伊藤若冲や曾我蕭白ら「奇想の画家」が人気です。鮮やかな色やおかしな形にあふれた若冲の絵も、蕭白の奇怪な人物画も、強烈で奇抜で、心を揺さぶります。

しかし考えてみれば、「奇想」という魅力は、「そうではないもの」つまり「ふつう」があって初めて成り立つのかもしれない。

実際、若冲や蕭白がセンセーショナルに登場した時代、一方には、誰もが美しいと思うものを描く画家がいました。平安時代に生まれた美に命を与え続けてきた「やまと絵」の流派の画家もいれば、中国伝来の水墨画の良さを浸透させた「狩野派」の画家もいます。また、若冲や蕭白と同じ時代に、同じ京で、未知の美に挑み、彼らに劣らない人気を得た円山応挙や原在中、岸駒らもいます。

敦賀市立博物館には、300点を超える江戸時代から近代にかけての絵画コレクションがありますが、若冲や蕭白の作品は一点もありません。いわば「ふつう」の美しさをたたえる作品が、徹底的に収集されているのです。

これまで、府中市美術館でもその一部を展示してきましたが、今回の「春の江戸絵画まつり」では、同館の全面的な協力を得て、選りすぐりの作品およそ100点をご覧ください。ことにしました。

美術はすべて「驚き」です。奇想の作品のように、呆気にとられたり気持ち悪かったりすることもあれば、きらきらした美しさにときめいたり、あるいは、穏やかな夢心地を味わえる絵もあります。描き手たちは、一枚の平ら

な画面の上に、見た人の心をさまざまに動かすための技術や工夫を込めてきたのです。

「奇想」への注目によって「ふつう」になってしまった江戸時代の「きれいなものづくり」ですが、そこには、豊かな歴史と美の手法が生きています。そんな「ふつう」の魅力を知れば、奇想も、そして「日本美術史」という更なる広い世界も、もっともっと輝いて見えることでしょう。

ぜひ「きれいなもの」を見に、春の江戸絵画まつりへお出かけください。



岸恭《四季花卉図群鳳》(後期展示)

### 絵の具の美しさ

日本絵画の一番の特徴は、絵の具の美しさ。中でも岩絵の具は、鉱物を砕いて作られるため耐久性にも優れ、時代を経ても、鉱物特有の混じり気のないキラキラした輝きを感じることができます。

## 日本の絵の美とは？



みどころ

## 2

### 「敦賀コレクション」は「美しい絵」の宝庫

ただ美しいこと。それも美術との出会いにおける大切な「驚き」のひとつです。敦賀市立博物館の江戸絵画コレクションから、選りすぐりの「美しい」作品群がやってきます。日本の絵ならではの絵の具の美しさ、墨の雄弁さをご覧ください。



土佐光起《伊勢図》(前期展示)



### 墨の雄弁さ

日本には水墨画の伝統があります。墨一色で描く絵画ですが、実物を見ると、墨による表現の幅は実に様々で、墨がいかに雄弁な「色」であるかがよく分かります。



曾我二直庵《岩上鷹・柳枝鷹図》(後期展示)